

[伊予市家庭教育情報誌]

ほのぼの

第14号



私たち家族は、愛犬も入れて7人家族です。祖父と祖母に協力してもらい、とても楽しい毎日を過ごしています。佐礼谷という所は、自然が豊かで地域のみなさんが協力し合える、素晴らしい所です。

これから子どもが成長するに連れ、大変なこともあるかと思いますが。子どもといふ時間を今後も大切に、子どもが成長する姿を記憶に残したいと思っています。

祖父母：金山義行、一二三

父母：金山武志、由紀子

子ども：竜斗、鈴奈

ポメラニアン（オス）：BOLT

（中山町佐礼谷）



子育てがんばっています!!

日々の子育ての中で気をつけていることは、「親の機嫌でおこらない」「テレビやDVDの見せすぎに注意して、絵本をたくさん読んであげる」ですが・・・分かっていても、ついつい忘れがちです。祖父母にしてもらった子育てを思い出しながら、子どもたちと「共に」成長していきたいです。輝く笑顔をありがとう。



祖父母：菊池晴喜、英子・松田メグミ

父母：菊池壮平、千代 子ども：壮翔、杏

叔母：守口英里 子ども：想新

（双海町上灘）

編集後記

伊予市家庭教育情報誌「ほのぼの」第14号が完成しましたのでお届けします。今回は、各地に広がりを見せている「絵本の読み聞かせ」を特集してみました。

子どもの健やかな成長は、親の願いであり、社会全体の願いでもあります。いつの時代も子どもを取り巻く状況は、その時代を反映し、家庭や地域の教育力に大きな影響力を与えてきました。

家庭にあっては三世代同居による子育てや、地域にあっては地域ぐるみの子育てが難しくなっている状況です。親の中には、子育ての不安感や教育の仕方がわからないといった育児に関する悩みが多くなり、子育てや家庭教育を支援することが大きな課題となっています。

そこで、伊予市では、これまで6年間、家庭教育・子育てを支援するグループを作り、市内の小学校、幼稚園、保育所または公民館などと連携しながら、「親育ち」の学習会や悩みの相談、情報の提供等を行ってきました。中でも、子育ての経験を語り合う座談会では、親子のかかわりについて振り返ったり、お互いが学び合うよい機会となったようです。

家庭は、人間形成を担う最も基礎的な場です。知識や社会のマナーを子どもに伝えていくことはもちろんのこと、家族の深い愛情と厳しさ、思いやりの心を育み、人として正しく生きていくことを学ぶところです。そこで最も大切なのは、家族の「絆」ではないでしょうか。



2014. 2. 9

子育てがんばっています!

私たちは、8人家族です。

祖父母をはじめ4人の子どもたちに煮まれ毎日生活しています。ご飯をみんな食べているとき、改めて幸せだなあと思うことがよくあります。と同時に、身体のことを考えてお料理も頑張ろうと意欲が湧いてきます。

これからも平凡な毎日に感謝して、みんなで穏やかに暮らしていけたらいいなと思っています。

祖父母：靄岡修二、京子

父母：靄岡俊明、理恵

子ども：輝汰、友哉、日和、蓮（米湊）



子育て真っ最中の
皆様の応援をします。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ

☎ 982-5155

FAX.982-5156

〒799-3113 伊予市米湊768-2 (伊予市中央公民館内)

絵本の読み聞かせ

わくわく ドキドキ 楽しいな

読書は、考える力や感じる力や優しい心を育てます。子どもたちは、本を読んでもらうのが大好きです。お母さんの膝の上で、寝っ転がって、先生に……。でも、読み聞かせて本を読み聞かせるだけではないんです。「続き話を作る」「ペープサートでお話を演じる」「続き話を絵に描く」等、子ども達の活動を取り入れることも大切にしています。伊予市家庭教育・子育てグループによる絵本の読み聞かせ活動について紹介します。

子育て支援センター 双海保健センター

0～3歳の子どもと保護者

本の読み聞かせ、エプロンシアター、フラダンス、ペープサート等の活動をしたあと、色紙をちぎって大きな魚を作ったのりで貼ったり、段ボールに絵を描いたりしました。この時使用したのりやパスは、口に入っても安全な物を使用しました。



★ 初めてのりを使って遊んだが、とても楽しそうにしていました。家でもできるので、これから遊びに取り入れていきたいと思いました。

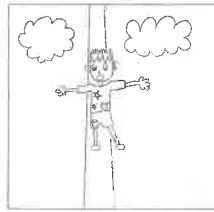
★ 本の読み聞かせだけでなく、人形などを使って楽しく読んでくださって親子共に楽しかったです。

★ 私自身、勉強になりました。絵本選びの参考になってよかったです。

北山崎小学校PTA図書部

北山崎小学校ではPTA図書部が中心となって子どもたちに読み聞かせなどを実施しています。

図書広報より一部抜粋 (No.345)



★ えほんがたのしいおはなしでうれしかったです。おとこのこがかっこうがえりにどうろのしろいせんだけふんでかえったおはなしで、おかしかったです。わたしもいつかちよつとやってみたいです。(1年 みずせき りお)

★ 「ちかみち」は、とてもおもしろい本だと思いました。みどりの虫とむらさきの虫がたたかって、ぼくはこれからどうなるのかわくわくしました。みどりの虫がおちたと思ったら、おちずに、したにくっついていたのですごかったです。(2年 まつ田 かずき)



★ わたしは、読書サークルに行って、楽しい事が一つありました。それは、ペープサートでえんぎをしたことです。私は、ペープサートでしたえんぎは、100点満点だと思います。また、3学期も、読書サークルに、さんかしたいです。(3年 佐伯 心和)

北山崎小学校PTA図書部

メンバー構成

部長・副部長 (PTA本部役員)
1～3年生の各クラスから選出された役員さん5、6名
他に、ボランティアで来てくれるお母さんや地域の方、数名
計 約10数名

主な活動内容

- 朝の読み聞かせ (年間で12回、月1回程度)
午前8時から15分間、北山っ子タイムの時間に、1～3年生の各教室に入って、絵本や紙芝居を読みます。
- 読書サークル
年3回、学期ごとに1回、放課後に1～3年生を対象に事前募集して行います。
外部の読み聞かせグループの方にも依頼します。

PTA活動としての読み聞かせです。役員になり、初めて読み聞かせをするお母さんも最初はどきどきしながら教室に入りますが、子どもたちが真剣に聞いてくれて、最後は笑顔で「ありがとうございます」と喜んでくれる様子にほっとします。そして、次の活動を楽しみにしています。聞いているときの子どもたちの反応や表情、そして「ありがとうございました。」と喜んでくれる笑顔、さらに、何の絵本を読もうかなと絵本選びのときの楽しさ、読み聞かせにはそんないろいろなエッセンスがたくさんつまっているような気がします。今後も、子どもたちが楽しみにして待ってくれる読み聞かせをメンバーで盛り上げていきたいと思っています。

絵本の紹介



私は絵本が大好きです。大人になった今でも大好きです。それは、読みやすいというより、楽しいのです。うれしいのです。そこで今日ご紹介させていただく絵本はポップアート作家「奈良美智」さんの「ともだちがほしかったこいぬ」です。親子でページをめくりながら、女の子の目と犬の目を見てあげてください。勝手に「あっ」「う～ん」「えへっ」とかって言葉が出てきちゃうのです。それだけで、ハラハラ、ドキドキ、ホッとした気持ちになれますよ。さあ、きっと女の子も犬も君と出会うのを待っているはず……。

双海読み語り隊 代表 橋本千春

さっちゃんの 子育て相談日記

子どもには、困難に打ち勝ち、たくましく生きるモデルとなる人が必要です！



肌寒い6月のある日、小柄な小6のS男が担任教師に連れられて相談室を訪れた。「この子は朝迎えに行ってもまだ寝ているんです。『起きなさい』と言ってもなかなか起きないので、わたしはごぼうを抜くようにして起こして登校させます。両親は仕事に、妹は学校へ行ってしまうと誰も居ません！」担任はまくしたてた。

S男の不登校は放課後の水泳練習が始まってからだった。

不登校の子どもは、友達がいじめ、先生が怖い、給食がいや、宿題をしていない等の理由で休み始めます。こうした理由は、そのきっかけとはなっても真の原因ではありません。もともと学校は楽しいことばかりではなく、つらいことが多いものです。この型の子どもにはそれを乗り越える力が弱く、学校より居心地のよい家庭へ逃げ込んでしまうのです。

『登校拒否の理解と指導』(昭和53年、愛媛県教育センター発行)より一部引用

S男の場合はまさしくこのタイプだと思った。このタイプは長引くと特に指導が難しい。

S男には押し出す力のない親に代わって、教師が子どもを強制的に学校に連れ出すやり方を続けてもらった。欠席の日には必ず連れに行くことを例外なく続けてもらった。ともかく学校へ連れ出して、不登校の習慣化を避け、水泳でつらさに耐えるという体験をさせたいと考えたからだ。

後日S男が水泳大会で好成绩を出したという知らせが届いた。しかしS男が相談室を訪れることはなかった。わずかだがS男の自我が強化されたことを感じた。

このやりかたはだいたい失敗するケースだが、今回はチームを組んだ学校の体制と学校へ連れ出したあとの教師からのタイミングのよいかかわりが良かったと思っている。

(実例をある程度変更および抽象化しています。)

子育て相談室

☎ 982-2602 (伊予市教育委員会内)

相談内容についての秘密は厳守します。

広田小学校での学習会

平成25年11月10日(日)に「社会性を家庭でどのように育てるか」と題して次のような話がありました。

- 心の三大栄養素(耐性・自主性・社会性)
- 今からでも間に合う、社会性を育てるための家庭教育(親が手本を・家庭でのあいさつを・早寝、早起き、朝ごはんを・家庭の中の決まりを・助け合いを・体験のすすめ)
- 家庭教育とは巣立ち(親離れ子離れ)の準備期間(大切にされているという感覚・認めてもらっているという感覚・夫婦の絆)

その後、グループになり、子育てについての疑問や悩みを話し合いました。

★ 心の三大栄養素についてのお話では、桶に水が溜まるのはどこまでかという、とても分かり易い例えで心のバランスの大切さを示唆していただきました。

★ 「家庭教育とは子どもが巣立っていくための準備期間」というお話に、親の務めを改めて考えさせられました。

★ 生きる力をしっかり育てることを分かり易く教えていただけて良かったです。あいさつや朝ごはんやコミュニケーションなど小さなことから毎日続けていきたいと思っています。

★ とてもあったかい気持ちになりました。

